

好きな（理論的な）研究を継続的に

フェロー 西関 隆夫
東北大学 大学院 情報科学研究科

光栄なことに 1 月のコンピュテーション研究会でフェロー就任記念講演をさせていただきました。その時、回路網合成，グラフ理論，離散アルゴリズム，秘密鍵共有法という今までの 30 数年の理論的な研究を振り返り，一見脈絡がなさそうであるが，「グラフ」という背骨が一本通っていることを話しました。どうして 30 年以上も続けられたのかというと，単に「グラフが好き」だけだったかのような気がします。一時的な流行や実用性などに惑わされることなく，好きな研究を継続して深く掘り下げれば，他の分野にも普遍できるような成果が得られるのではないのでしょうか。「現在実用的な応用がある」という成果で，20 年後も生き残るであろう成果は数少ないのではないのでしょうか。それに対し，理論的な結果は，辺りの技術的環境が変化しても，30 年や 50 年は生き残るものがまま見受けられます。何でもよいから好きな分野の理論的に深い研究を続けること，「継続は力なり」と若い方々に申し上げたい。また若い時は，専門分野の古典的な論文として評価の高い高度なレベルの論文を数少なくてもよいから完璧に理解しよう。読み解くことができた論文のレベルの，よくて 5 分の 1 のレベルの論文しか書くことはできないのだから，できるだけレベルの高い論文を読み解く訓練をすることをすすめます。